細工物から洋服までアイディアいっぱいの実例集

Gakken Interior Mook

古布に魅せられた暮らし

巻頭とじ込み付録
ポストカード
巻末とじ込み付録
手づくり型紙

手づくりを楽しむ号

其の三

個性を演出する古布の装い
古布で仕立てる 古布を着こなす

布の魅力あふれるバッグがたくさん
やっぱり欲しい袋物

古布作品に使いたい パーツカタログ

キルトのバッグ、布絵、コースターなど、
5人の作品の作り方も掲載!

暮らしを古布で彩って

切り離してミニカードとして
使用して下さい

2つ折りにして
メッセージカードにして下さい

巻頭とじ込み付録・ポストカード　ミシン目で切って、ポストカードやメッセージカードとしてお使い下さい。

See you

kofuni miserareta kurasi

暮らしの本

古布に魅せられた暮らし

手づくりを楽しむ号

其の三

パッチワーク教室で身につけた技術を生かし、古い藍染などを洋服に仕立てている久保さん。「古い着物を無駄にするのはもったいない」と着物を洋服に仕立て直すお母さまを見て育ったため、古布を使った洋服づくりをするようになるのは自然な流れでした。決め手となったのは、12年ほど前に出かけたキルトの展示会。「斬新で個性的な絣のベストに心を奪われたのです」。

特に好んで使うのが、襤褸や柔道着、剣道着、幟などです。「暮らしのなかで使い込まれた、やわらかな風合いの古布が大好き」。洋服のデザインは、使いたい古布を作業台に並べ、にらめっこするところから始まります。布の組み合わせがかたまったら制作にかかり、最後に遊びを加えるのが久保さん流です。コートにはご主人お手製の流木のボタンを、シャツの襟元には小さな人形をつけてアクセントに。ディティールにこだわり、愛着がわくように仕上げています。

ふだんはシャツやモンペ、出かけるときはワンピースやコートなどを身につけている久保さん。日々手作りの服に親しんで、暮らしを充実させています。

使い込まれた藍染に遊び心を加え親しみのわく一着に

神奈川県●久保栄子さん

剣道着を使った男性用のジャケット

左下／ご主人のために作ったジャケット。剣道着をばらして布を取り、身頃や袖に切り替えを入れて変化に富んだ見た目にしている　左上／味のあるボタンは、ご主人が手作りしたもの。桜の枝を切り、食用油をしみ込ませてからニスを塗って仕上げた　右上／前身頃の裏に使ったのは、昔の矢をおさめていた袋の生地。くすんだ色と風情ある文字で目を引くデザインに　右下／ポケットにも前身頃の裏と同様、矢の袋を使った。昔の硬貨にひもを通して縫いつけ、アクセントに

幟一枚分で作ったふんわりブラウス

一枚の幟を使ったブラウス。襟元や裾にはひもを通し、ギャザーを寄せている。淡い色やゆるやかなラインが、女性らしいイメージ

幟と縞のワンピース風コート

右／左右の身頃に別々の古布を使ったユニークなコート。向かって右側の身頃は、幟に柿渋を施したもの。大きな円が描かれた部分を大胆に使った。左側の身頃には縞を使っている。薄茶と紺のコントラストが美しい　左／袖には幟を使用。七分袖に仕立たことで動きやすく、すっきりとした印象になっている

襟と前立てには絣を使い、個性の異なるふたつの生地がなじむよう、全体のバランスを取っている。襟は太さの違う絣を重ねて、存在感を出した

剣道着と秋田の幟のベスト

右／身頃に剣道着を、襟や前立てに秋田の幟を使ったご主人のためのベスト。ボタンをかけるのがわずらわしいというご主人の声を受け、前はオープンにしている　左／大胆な絵柄を後ろ身頃に縫いつけ、趣と風情を出した。背中にポイントがあるほうがかっこうがいいというご主人の好みを反映させた作品

工夫を凝らした布合わせや刺し子で愛敬ある洋服に

裏地のブラウスとモンペ

右／華やかな着物の裏地をはぎ合わせた薄手のブラウス。刺し子が施されたモンペと相性ぴったり　左上／軽やかなブラウスは５種類の生地をはぎ合わせたもの。裾の部分に端切れをあしらい、かわいらしい印象に　左下／刺し子が施された藍染の古布のモンペ。ひざに穴があいたので裏から布を当て、赤い糸で刺し子した

水色の麻入りのシャツとモンペ

左／子ども用の祝い着で仕立てた、夏にぴったりのシャツ。背についていた家紋を前身頃の下部に配置して、アクセントにしている　中央上／身頃の丈を出すため、同じ着物の端切れを合わせて調節。段差をつけて、カジュアルなイメージに　中央下／襟元に端切れで作った小さな人形をつけて、愛らしい雰囲気に。久保さんの手作りで、ちょっとしたあき時間によく作るものだそう　右／麻のモンペは骨董市で買ったもの。裾にモンペの裏側をはいだ生地で作ったリボンをつけて、アクセントに

ペンギンのぬいぐるみは剣道着などの端切れを貼りつけて制作。作家のkinuuさんの作品を展示会で見て衝撃を受け、自らもぬいぐるみづくりを始めたそう

P.100で作り方を紹介

あまった柔道着や襤褸の端切れを使って、かわいらしいぬいぐるみに。わざとラフに縫いつけ、目には数珠玉を使い、味わいを出している

味わいたっぷりの襤褸のコート

左／神奈川県大和市の「古民具骨董市」で買った縦横2mの敷物をコートに。冬になると必ず袖を通すお気に入り　中央／前立ての裏に絣を縫いつけている。ボタンをはずしたときにちらりと見えて、かわいらしい雰囲気に　右／「ボロボロになった襤褸に親しみがわきます」。フードの内側には絣をつけて、見映えするよう工夫。久保さんの作品はネットショップ http://woodbine.dip.jp/ で販売している

襤褸に当ててあった布がはがれたら、そのつど補強。刺し子を施して、大切に使っている。味わいがましてぬくもりが感じられる洋服に

久保栄子さんの 森のフクロウ

P.67に掲載

■材料

- ◉ボディ用の布
  （漂白した絣・13×15cm）……左右各1枚
- ◉マチ用の布
  （漂白した絣・5×13cm）……1枚
- ◉顔用の布
  （柿渋染をした柔道着・6.5×5.5cm）……2枚
- ◉目A用の布
  （柿渋染をした柔道着・3×4.5cm）……2枚
- ◉目B用の布
  （柿渋染をした柔道着・3×4.5cm）……2枚
- ◉目C用の布
  （柿渋染をした柔道着・2.5×1.5cm）……2枚
- ◉羽用の布
  （柿渋染をした柔道着・10×10cm）
  ……左右各2枚
- ◉口ばし用の布（3.5×2cm）……1枚
- ◉飾り布（好みの端切れ）……適宜
- ◉手芸綿
  ※お尻以外は布やフェルトの端切れでもよい
- ◉数珠玉 ……2個
- ◉足用ワイヤー
  （φ0.2〜0.25×25〜35cm）……2本
- ◉フェルト（φ2〜3cm）……1枚
- ◉ミシン糸
- ◉手縫い糸

1

巻末A面の型紙の通りに、ボディ、マチ、顔、目A、目B、目C、羽、口ばしの布を裁つ。左右のボディの間にマチを挟む形でAとBの合印で合わせながら中表にし、縫い代0.5cmで縫い合わせる。返し口は縫わずに残しておく。表に返して手芸綿をしっかり詰め、返し口をまつり縫いでとじる。綿を入れたときにシワが寄りやすいので、後頭部をつまんで形を整える。

2

顔を2枚重ねて❶にあらくまつりつける目Aと目Bはそれぞれ2枚重ねてぐし縫いする。目Aを右に、目Bを左に配してあらくまつった後、目Cの布を重ね、2本どりした木綿糸で横に一本、図のように縫いとめる。目Cの上に数珠玉を縫いつける。

3

羽を外表に合わせて中に少量の綿を詰め、ぐし縫いする。左右のバランスを見ながら❷のボディにあらくまつって縫いとめる。

4

口ばしの布を巻いて顔の中央にあらくまつって縫いつける。飾り布を好みのバランスで縫いつける。

5

図を参考に足用のワイヤーをラジオペンチで曲げて2組のパーツを作る。ボディの足をつける位置に目打ちなどで穴をあけ、背中から6〜8cm程度ワイヤーが出るようにさし込む。背中から出たワイヤー2本をねじってつなぎ、上からフェルトを木工用接着剤で貼り、端切れを縫いつけて隠したら、でき上がり。

ISBN978-4-05-606784-2

C9477 ¥2100E

雑誌69814-80
Ⓗロングセラー
GAKKEN 1860678400
定価2,205円 本体2,100円

9784056067842

1929477021006